

第3回旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会招致検討委員会	
日時	平成29年8月24日
開催場所	横浜市庁舎 5階関係執務室
出席者	涌井 雅之、池田 典義、岸井 隆幸、坂井 文、坂田 宏、須磨 佳津江、福岡 孝則、水谷 初子、三輪 律江、若松 浩文、和田 新也、渡辺 真理、脇坂 隆一、佐藤 紳
欠席者	隈 研吾、保井 美樹
開催形態	公開（傍聴人10名）
議事	1 開催意義 2 事業展開 3 会場・行催事 4 関連事業 5 その他
資料	(1)資料1：委員名簿 (2)資料2：席次表 (3)資料3：第3回委員会資料

## 議事内容

### 1 開会の挨拶

#### 【事務局】

- ・定刻となりましたので、ただいまから第3回国際園芸博覧会招致検討委員会を開会致します。私は当委員会の事務局を務めさせていただき、政策局政策課担当課長の折居と申します。本日は委員の方々、お忙しい中、会議にお集まりいただき御礼申し上げます。本委員会は横浜市付属機関の会議の公開に関する要綱に基づき、公開とさせていただきます。報道の方々がいらっしゃるとともに、会議録も公開となりますのでご了承ください。

### 2 議事

#### 【事務局】

- ・まず始めに、海外の経験豊富な福岡委員からドイツの国際園芸博覧会の事例の紹介をしていただきます。

#### ≪福岡委員よりドイツで行われた国際園芸博覧会の具体的事例と話題提供≫

#### 【事務局】

- ・福岡委員には今後、横浜市の国際園芸博覧会博招致委員会の参考にもなる事例を挙げていただきました。それでは、涌井委員長に議事の進行をお願い致します。

#### 【涌井委員長】

- ・委員の方々にはご出席いただき、ありがとうございます。いよいよ3回目で、いろいろ駆

け足で議論をしていただきましたが、本年度末には、国の方に対して、われわれ委員の考え方を示し、国際園芸博覧会博招致に横浜が立候補するにあたり応援していただきたいと考えています。そのため、皆様にはご負担ですが、議論を深めていきたいと思えます。事務局が今後の時間軸に従ってどういう議論をしていくか整理しています。まずは、開催意義が重要になります。なぜこの時期に横浜で開催するのか事務局からご説明いただきます。

**【事務局】**

(資料3 1 これまでの振返りの説明)

**【涌井委員長】**

- ・開催意義については、欠席している委員にもご意見を聞かなければいけません。そして今回ご欠席の隈先生および今回出席の福岡先生、博覧会に精通をされている若松先生にどのような開催意義が必要かという、ご意見を聞いている最中です。まだご意見を伺っていない委員もいるため、最終的なご報告は次回になります。自然や花などの具体的な価値の表現と、現在の不安な世界の中で求めている心の価値観、あるいはそれぞれの五感を働かせている中で共通認識できる感性価値を抽象的な表現に花や緑が投影されていくような言葉、併せてそれを英語表記にした時にしっかりと相手方に伝わるメッセージが良いのではないのでしょうか。社会や暮らしの未来像と花や緑が二重に重なるテーマや理念をしっかりと打ち出すことにあります。それらをどのように詰めていくのか、俯瞰的な議論だけでなく、物理的なプランにも上瀬谷の持っている条件や土地利用との間でマッチングしなければいけません。この点を踏まえて物理的な観点で事務局にも進めてもらいたいですし、私も多くの委員の意見を聞いて、さらにその内容を吟味し、具体的な表現にして次回に反映させたいと思えます。

**【事務局】**

(資料3 2 事業展開3会場 4 関連基盤整備の説明)

**【涌井委員長】**

- ・委員の先生方と我々が共通認識を持つ必要があります。今私たちが検討しているのは、横浜に国際園芸博覧会を誘致する必要十分条件の概括的な方向性や検討に漏れが無いかという事で、かつ魅力的な博覧会をぜひ開催したいという点での議論になります。
- ・事務局の説明では、規模の観点から聞くと「A1」「B1」「B2」がいっしょくたになって整理されているように思います。われわれが目指している博覧会はあくまでも「A1」のクラスになります。外交儀礼については、「A1」だと海外の大使および開催国政府代表も常駐することになります。国際的な儀典の対応や国際的なコミュニケーションも非常に重要になります。そのような博覧会を目指さなければいけません。福岡委員からの事例紹介にもあったように博覧会の階層性を意識しながら作業を進めて頂きたいです。

**【事務局】**

- ・国内で開催された園芸博を資料としたため、誤解されやすい部分もあるかと思えます。資料で示した会構成比較として過去の博覧会を示していますが、大阪花博が委員長からも説明があった外交儀礼上大変重要になる「A1」になります。大阪花博のグレードを横浜

市としては目指していますし、規模で言うと参加国も10以上、面積も50ha以上、必ず外務省を通じた外交チャンネルを通して、公式に招請を行うこととのレギュレーションが決まっています。

**【涌井委員長】**

- ・福岡委員に質問ですが、先ほどの事例紹介の中の博覧会はいずれも「A1」でしょうか

**【福岡委員】**

- ・ハンブルクは「A1」で、ほかの博覧会については確認が取れていません。

**【和田委員】**

- ・ドイツのIGAとオランダのFloriade（フロリアード）はヨーロッパ大きな2つの潮流になる「A1」の国際園芸博です。2年がIGA、3年がフロリアードになります。BIEが開催には1年空けることが条件になっています。フロリアードは西暦の最後が2の年で、IGAは、本来西暦の最後が3の年ですが、譲って7の年になったものです。3のつく年は2003年のロストックが最後で、その後様々な経緯で今回のベルリンはBIEの正式な国際園芸博覧会の認定はされていなく、あくまでも単独の開催であります。

**【涌井委員長】**

- ・会場計画を立てる上で、国が国際園芸博を招致する以上、この土地の跡地利用をわれわれ委員に知らされるのはいつごろどのような形になるのでしょうか。跡地利用と会場計画、アクセビリティが、非常に密接に関係があります。跡地利用が具体的でなくとも、戦略的な方向性が定まってくれば、アクセビリティなども決まってくるので、今現状はどこまでの話になってきていますか。

**【事務局】**

- ・大きな方向性としては、米軍への提供から70年が経ちますが、この西部エリアは本来のポテンシャルを生かし切れずにいます。このたび返還から2年を経て、ひとつは郊外部の活性化拠点にしたいと考えています。横浜市は港と丘があり、臨海部はマンパワーを活用し150年で繁栄を見せてきましたが、同じく郊外部も港北ニュータウンをはじめとしたまちづくりを進めてきました。この南部には直径1km<sup>2</sup>の約77haの深谷通信所があります。市としては、この2拠点を郊外部の活性化拠点としていきたいと考えています。
- ・併せて、相鉄線が現在都心に乗り入れる事業を行っています。東京新宿方面乗り入れを目指していて、神奈川県西部エリアにも広がりを持たせ、インフラ整備が出来つつあります。深谷通信所では公園を中心に、スポーツと健康をテーマに現在検討しています。上瀬谷には、まだまだ上下水道などのインフラの整備の問題がありますが、東名高速道路や保土ヶ谷バイパスなどの道路付きは非常に便利な場所にあります。鉄道は距離が離れてはいますが、四方に囲まれてあり、便利でポテンシャルがあります。
- ・都市的土地利用と農業を両立した新しい本来の田園都市を目指していくことも構想としてあります。今後は都市的土地利用をどのような形にしていくか課題です。地元地権者が250名おり、民有地と国有地で半分に分けられています。環状4号線の西側を農業中心に活性化すること、そして東側に都市機能を配置していくことを目指して地権者などと検討しています。土地利用について、本年度中に農業振興エリアと土地活用エリアに分け

ることを検討していきたいと考えています。

**【涌井委員長】**

- ・会場の構想と土地利用を密接不可分の関係の落とし込むことは、今後国に対してわれわれが10月、11月までに、国有地と民有地の土地利用についてどのようにするのかを成果として示していくのには間に合わないということでしょうか。つまり、戦略的方向性をイメージとして捉えて、それをキャッチアップした姿で、会場計画のゾーニングをしていく与件でよろしいですか。

**【事務局】**

- ・それで結構です。

**【水谷委員】**

- ・跡地利用の話で、ユニークベニューとしての今後の活用を見据えて考えていただきたいと思います。MICE誘致においても、現在日本にはユニークベニューが少ないと言われていきます。具体的には、MICEの国際会議であったり、企業のインセンティブの団体で、ディナー会場として使用したり、表彰式を行ったりという場所が求められています。例えば、首都圏ですと、増上寺や浜離宮がユニークベニューとしての活用を検討され始めてもいきます。横浜みなとみらいや東京にお泊りの方にも、いろいろな用途で利用可能な場所になります。この上瀬谷の土地にもその可能性があります。MICEだけではなく、コンサートやライブでの活用、環境にも配慮したサステナブルな活用なども必要です。

**【福岡委員】**

- ・前提とされている敷地規模の80、100haに関して、そもそもこの規模を算出された根拠をお伺いしたいです。

**【事務局】**

- ・会場面積規模の「A1」の最低基準は、50haでありまして、そのうち建築物は最大でその10%です。大阪や淡路、浜名湖などの花博も勘案してきたなかで、80～100ha位を算定しています。AIPH規則で決まっているのは、50ha以上となります。

**【福岡委員】**

- ・博覧会の敷地の中で想定されている構成や過去の事例は理解できました。日本で開催された博覧会事例のみから適正規模を議論するのは難しいと思います。次に、博覧会の開催が、その後周辺地域に与えたレガシーについて、この委員会では過去に議論されたのでしょうか？また、横浜市が戦略として考えている博覧会のレガシーに関してお伺いしたいです。

**【事務局】**

- ・この委員会で開催後のレガシーとして、ご議論いただきたいのですが、委員長のご指摘通りにまだ地権者との話し合いの段階でして、資料がお出しできる状況ではありません。一方で、いろいろな意見をいただいて、会場計画でそれを示せば、いろいろな効果が得られるのではないかと考えています。

#### 【福岡委員】

- ・ 博覧会を想定して計画・実行・跡地利用（開発）という順番で考えがちですが、計画の段階で敷地の一部を社会実験の場として開き、何かを試してみるのはいかがでしょうかと思います。そのようにして会期中だけでなく、そこに至るプロセスのデザインも必要です。今までのプロセスではなく、周辺地域に博覧会のレガシーを波及させるための計画・実行のプロセスや、博覧会後に次のステージに移行するまでの時間軸の設定まで議論する必要があると思います。

#### 【渡辺委員】

- ・ 開催規模に関して、面積規模はALPHIに申請する前に決定するのでしょうか。会場規模によって予算が違ってくるのが、市民として気になるところです。図面を拝見してみると、会場から会場外を眺めた時にどの様に見えるのかも気になりました。
- ・ 開催意義については、第1回にも申し上げましたが、関東大震災と戦災にも耐えた土地として、2026年には震災から100年、戦禍からは80年が経つこととなります。上瀬谷には横浜の持つオリジナリティが凝縮されています。古墳があり、水も豊かで、稲作が盛んで、養蚕も栄えた歴史ののち、戦後は軍事利用が行われてきました。日本最初の開港の地横浜には、今も多くの他の米軍跡地があります。そのような歴史を刻む上瀬谷だからこそ強く静かに「平和」のメッセージを訴えていけるような園芸博にしていけるのではと願っています。

#### 【涌井委員】

- ・ 最大の課題として、今回の博覧会は市だけのものではないという事です。国家として支援していかなくてはなりませんし、もちろん市も負担していきます。他にも産業界など様々なステークホルダーに協力してもらうために、投資することに魅力を感じてもらえるようなテーマが重要になります。同時に、これらを受け止める市民の皆様が納得してもらえる事も必要です。
- ・ 国有地だけで収まらないことになれば、これまで70年間も臥薪嘗胆してこられた地元の地権者の気持ちもふまえて今後の将来像への合意形成が必要になると思います。

#### 【岸井委員】

- ・ 交通手段を考えた時に、今までの博覧会で輸送力の3~4割を負担していた軌道系が上瀬谷にはないので、提示して頂いた会場案の駐車場の量では足りないでしょう。交通の状況についてピーク時の予想や捌き方について、もう少し整理が必要ではないでしょうか。
- ・ 東京臨海部の方は車を所有している人が少ないので、通常であれば公共交通機関で来場したいはずですが。交通体系の計画を検討しないと会場の規模間を間違えてしまう恐れがあります。
- ・ 相沢川に今後どのくらいの負荷をかけていくかの整理をしておくべきです。下水の処理など今の流量や将来、周辺を宅地化した場合にどのようになるのかを調べておくとういでしょう。これらを将来の会場計画の中に盛り込めると良いでしょう。

#### 【涌井委員長】

- ・ 会場計画の中で一番重要な課題になるのが駐車場の問題です。上瀬谷地域は平坦な土地で

すので、ランドスケープでも隠しようがありません。会場構成案の中に駐車場が確保されていますが十分な規模とは言えません。別途な交通手段を検討しなくてはならないでしょう。どうしても自動車交通に頼るのであれば、パーク＆ライドの形で別の場所に駐車場を整備し、そこから違う輸送手段で会場に入る計画もあるでしょう。あるいは軌道系等の第3の交通手段も考えなくてははいけません。様々な交通手段の活用によって規模感が変わってくるかもしれません。

#### 【坂井委員】

- ・来場者をどこからアクセスさせるかも重要になると思います。例えば環状4号線は片側1車線ですが、今回の計画にあたって拡幅が可能なかどうか、また会場案②の入り口を海軍広場に設定して本当に機能するのかが分かりません。また相沢川についても橋を架けることとなりますが、多くの来客に対応しながら環境に対応したものに物理的に対応できるのかの懸念もあります。
- ・先ほど博覧会会場が周辺地域にどのような滲み出しがあるかの話がありましたが、現状でも東側にまとまったゴルフ場や市民の森があります。まとまった緑の懐で何をするのかという考え方もありますし、北側の物流施設が点在している近くで何をするのかなど、今ある状況に配慮しながら開催後の土地利用を見据えた会場構成案が必要です。

#### 【事務局】

- ・博覧会からの滲み出しからまちづくりへ影響を考えていく事もありますが、現在の会場レイアウトの考え方のベースにあるのは、ご指摘のあったように市民の森やゴルフ場などまとまりのある緑との連携性をふまえたものです。
- ・会場計画のもう1つの視点として、まとまりのある土地を有効に活用するために国有地を主として想定しています。国有地が約100haあるのでそれにあわせた会場レイアウトにしています。一方で渡辺委員からも指摘のあったように、博覧会が開催される時にまわりがどのように見えているかを考えなくてはなりません。相沢川の周辺については国有地ではありませんが、何らかの形で地元の方にご協力を得ながら景観についても検討することになります。
- ・会場に来るアクセスの分担について、今の会場構成案では駐車場の量は足りていません。一方で軌道系についても愛・地球博の時にはリニモという新都市交通システムと会場内にロープウェイの整備をしました。今回は上瀬谷通信施設全体の土地利用の計画と関連が強いので具体的な明言は出来ませんが、事務局では新たな交通についても検討をしています。

#### 【和田委員】

- ・昨年トルコで開催された博覧会のインフラ整備については、会場に隣接して片側3車線の道路とトラムが整備されており、広い道路と駐車場が用意されていました。その点から考えると来場者数を1,000万人と設定するのは無理をしない方が良いのではないのでしょうか。

- ・今あるべき姿からゾーニングを検討しているかと思いますが、前回現地を視察した際に非常に広く平坦な土地である印象を受けました。これまで接收されていた土地に何が残っているかの調査はこれまで行ったのでしょうか。植生調査や上瀬谷に残っているものについて、一度整理すると良いのではないのでしょうか。

**【涌井委員長】**

- ・希少種についての話もそうですが、手つかずであった場所がかえって貴重な場所になっていることもあります。

**【事務局】**

- ・現状で把握しているのは基本的に文献調査によるものです。現地の調査等は来年度以降に行う予定です。

**【須磨委員】**

- ・この地域を将来的に郊外部の活性化拠点としたいとの話がありましたが、このことを踏まえると博覧会は最終的なゴールではなく新たなスタート地点になると思います。その場合、博覧会のゾーニングだけでなく地域の将来像のゾーニングも考えた上で整理していかないと市民の方も納得してもらえないのではないのでしょうか。

**【事務局】**

- ・都市緑化よこはまフェアが今回の博覧会の大きなキックオフであると考えています。その背景として、本市ではみどりアップ計画を作成し、市域全体で施策を展開してきました。そのような観点から言えば、緑化フェアを起点とし、博覧会を踏まえて将来的には横浜の多面的な見方の1つとしてガーデンシティのようなものが位置づけられると良いと考えています。
- ・上瀬谷の観点から言うと、農業振興や土地利用を進めていきながら、これらを併せ持った新しい田園都市のような大きな方向性を打ち出していきたいと考えています。

**【岸井委員】**

- ・おそらく2026年にはこの会場は5Gなどの高度な通信設備を用意できるでしょう。また、自動車企業も走行技術が発達し様々な技術を提供できるでしょう。これらの高度な技術をこの上瀬谷でどのように展開していくかを検討していくべきです。

**【涌井委員長】**

- ・『クリエイティブシティ』の著者はITとアートのコラボレーションが次の時代の中心になると言っています。単なる郊外部の活性化拠点だけでなく、国家としてこの時期に博覧会を誘致するというコンセプトと、それを横浜で開催する意味がきちんと重ならなくてはなりません。
- ・横浜市は非常に最先端であって常に国際的でありました。園芸の観点から見ても、明治時代に日本で初めてカタログ販売を国際的に行い、外貨を獲得してきた企業があります。さらにバイオミクリーやバイオの次の世代の話や、片方で新たな情報社会のような話もあります。つまり、バーチャルなものとスーパーリアリティーが背中合わせにあるような楽しさがこの会場で演出できたら面白いでしょう。例えばその境界を縫って歩けるようなことができれば非常に面白いですし、横浜として国際性を持った重たくて大きいもので稼い

でいくのではなくて、薄くて軽く場合によってはモノでない知恵だけで稼いでいくような仕掛けが出来ると良いでしょう。

#### 【三輪委員】

- ・農や体験、参加型、新たなライフスタイルの提案などがキーワードになってくると思いますが。横浜市の郊外部はまだら模様で農地が残っており、農と暮らしが密接に関わっている地域です。最近ではこのような暮らしに反応して若い世代の人たちが農に関わりながら生活していきたい人の移住が始まっています。先ほど社会実験の話が出ましたが、このように農が密接している地域で、そこに地域の住民との交流を丁寧に編み込めれば、そのような新たなライフスタイルの提案が出来るのではないのでしょうか。
- ・イベントで体験させることはありましたが、暮らしてみるのも面白いのではないのでしょうか。外からの来場者の事を重視して検討していますが、数日間滞留してもらうことや何回も来てもらうような仕組みがあると面白いですし、場合によってはそのための施設が永久的に残っていくような展開を具体的にどの場所に作っていくかのプランニングがあると良いです。
- ・海軍広場は周囲に農地や民有地があるので、この場所を起爆剤として交流の機会を作るのも面白いでしょう。新しいライフスタイルの提案を社会実験として旧上瀬谷通信施設で行うとした時に、どの場所であれば効果があるのかという観点からのゾーニングの立て方もあると思います。横浜市としてのビジョンを住民の方々とも意見交換をしながら戦略的に示していけると良いのではないのでしょうか。
- ・今回示していただいた会場構成案②の駐車場について、これらは博覧会終了後どのような利用がされるのでしょうか。駐車場としての整備は必要ですが、今後の土地利用についてのビジョンも提示して頂けるとよりリアリティーとテーマのビジョンに結びつくのではないのでしょうか。

#### 【涌井委員長】

- ・体験型から滞在型への流れはインバウンドの観点から見ても非常に重要です。今までの博覧会は滞在をコンセプトにしたものではありませんでしたが、そのような強みを探したり、そこでの暮らしを見せる方法も良いかと思えます。

#### 【坂田委員】

- ・これまでの他会場の例を聞いてみて、レイアウトや開催意義についても何故横浜なのかアピールできる目玉が必要ではないのでしょうか。それらが記念館や迎賓館のような建築物や農や庭園を混ぜたような公園になるかもしれませんが、いずれにしてもこれらは横浜らしさを表現できるものであり、博覧会が終わった後でも引き続き残していくことになるかと思えます。今後、何を残していくのかという事も整理して会場のレイアウトを考えるべきです。

#### 【涌井委員長】

- ・新たな横浜ブランドの構築について、今までもブランドのようなものはありましたが、その延長線上で良いのかということだけではなく、それらの伝統を前提とした新たなブランドの創生をどのようにしていくのかを考えることが大切です。



### 【池田委員】

- ・アクセスについての話がありましたが、市内の現状がどのようになっているかと言いますと、市内の人が会場に行くのは容易です。一方で、開催にあたっては10か国以上の参加が必要と言うことですが、やはり多くの国や全国各地の方に来てもらいたいです。そのような観点から見た時に東名高速道路の問題があります。土日の夕方ごろには大変な渋滞になっています。また、国道246号線も渋滞がひどい状況です。開催にあたってはアクセス性の向上が必要になると思います。博覧会の開催をきっかけに周辺整備を進めれば、横浜がもっと魅力あるまちになるのではないのでしょうか。

### 【福岡委員】

- ・敷地や会場計画はこの地域だけで収まる話ではありません。横浜市の西部は町田市や大和市に隣接していますし、地域間をつなぐ境川もあります。私が関わっている町田市の公園計画でも、都市に暮らしながら自然に近いライフスタイルの魅力を市民の方たちと共有しています。横浜市西部地域の魅力に関してはどうでしょうか？横浜らしさを国内外に発信する際にはどうしても港湾部の話が中心になってしまいます。外に向けたブランディング戦略として瀬谷を考えると、地域資源の魅力を掘り起こすリサーチする必要があるのではないのでしょうか。
- ・今回の会場敷地だけでなく、公園・緑地系統や文化・教育施設やスポーツ・レクリエーションまで、広域のエリアで俯瞰的に見た時、周辺域で将来に向けて動いている計画や構想に関しても整理をして頂けると良いと思います。境川沿いは休日になると、江の島方面から町田までサイクリングを楽しむ人たちがいます。移動手段としての自転車は今回の検討に入ってきていませんが、歩行者や自転車のネットワークも健康的なライフスタイルの観点からすると重要な意味を持っていると思います。
- ・今回ご提示頂いた整理は会場を更地と捉えた従来の開発志向の視点を基軸にしています。急がば回れではありませんが、もう少し周辺地域を対象としたリサーチが必要ではないでしょうか。同時に、外に向けての発信だけでなく、そこに生活する人の内側から出てくる「Livability（住みやすさ）」や「瀬谷らしさ」も反映しながら考えるべきではないでしょうか。自然や農業という固定のイメージだけではなく、外側に向けた魅力と生活する人の内側から醸成される、二つの横浜のイメージが伝わるといいかと思いました。テーマとはずれてしまいますが、その点について、しっかり示して頂けると、横浜の瀬谷で開催する意義や今後の戦略づくりについても議論しやすいのではないのでしょうか。

### 【涌井委員長】

- ・事業構想をつくっても産業界や商業界が出展してくれて民間活力を活かしてくれるのが大切です。立地から見ると多くの方が来場してくれると思いますが、彼らが期待外れだったと思わないためにも産業界を巻き込んでいくことは非常に重要になると思います。

### 【若松委員】

- ・アクセスの問題については、日本の場合は国内のこれまでの博覧会のデータは多く集まっています。それらをもとに愛知では事前にどのくらいの集客が見込まれるかも把握できました。一方で博覧会自体が事業的に成功するかが問題です。お金や土地を使うのは意外と

簡単ですが、博覧会の収支を黒字化していくのは簡単ではありません。入場料だけでは黒字にならないので他の収入源を集めないといけません。今回もソーシャルイノベーションとして様々な企業に参入してもらうことになると思いますが、企業が喜んでお金を出し、喜んで時間を使ってくれるような仕組みを作らないと収入は上がっていきませんし、当然コンテンツも上がりません。

- ・愛知の場合はマイナスのイメージからのスタートだったので、絶対に黒字化しなくてはならないという使命がありました。今回の博覧会も愛知の時と同じような現象になると考えており、初めの段階から黒字化できる方法論を検討しなくてはならないと思います。
- ・博覧会の評価についても経済的だけでなく、社会的にどのような影響があったのかの報告書を経済産業省が持っています。愛・地球博で初めて行った評価方法なので参考になるのではないのでしょうか。

**【涌井委員長】**

- ・2020年にオリンピック・パラリンピックが開催された後に国内の雰囲気は下り坂になるでしょう。2026年にはそのような雰囲気がかなり視覚化すると思われれます。来場することでポジティブな気持ちになってもらえるような博覧会にしなければいけません。そのような時期を想定しながら検討しなくてはなりませんし、一方で第4次を超えた第5次産業革命が起きてきていることや、SDGsのような話が起きてきて環境に関するレギュレーションが厳しくなっています。そのような社会情勢の中でどんな魅力的な博覧会を作っていくかを検討して企業が参加したくなるような機運を作っていくといけませんね。

以上